

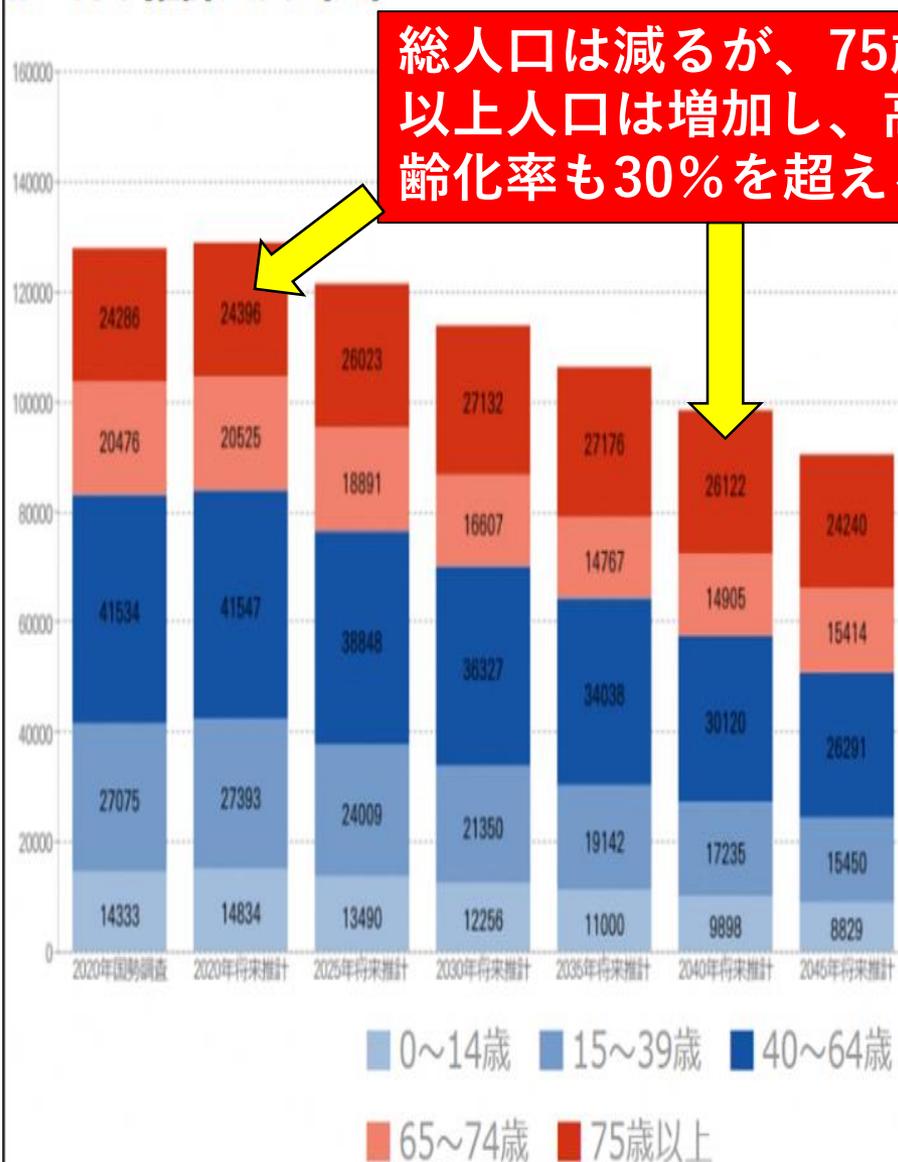
地域医療奥州市モデルと 新病院の役割について

2023年1月

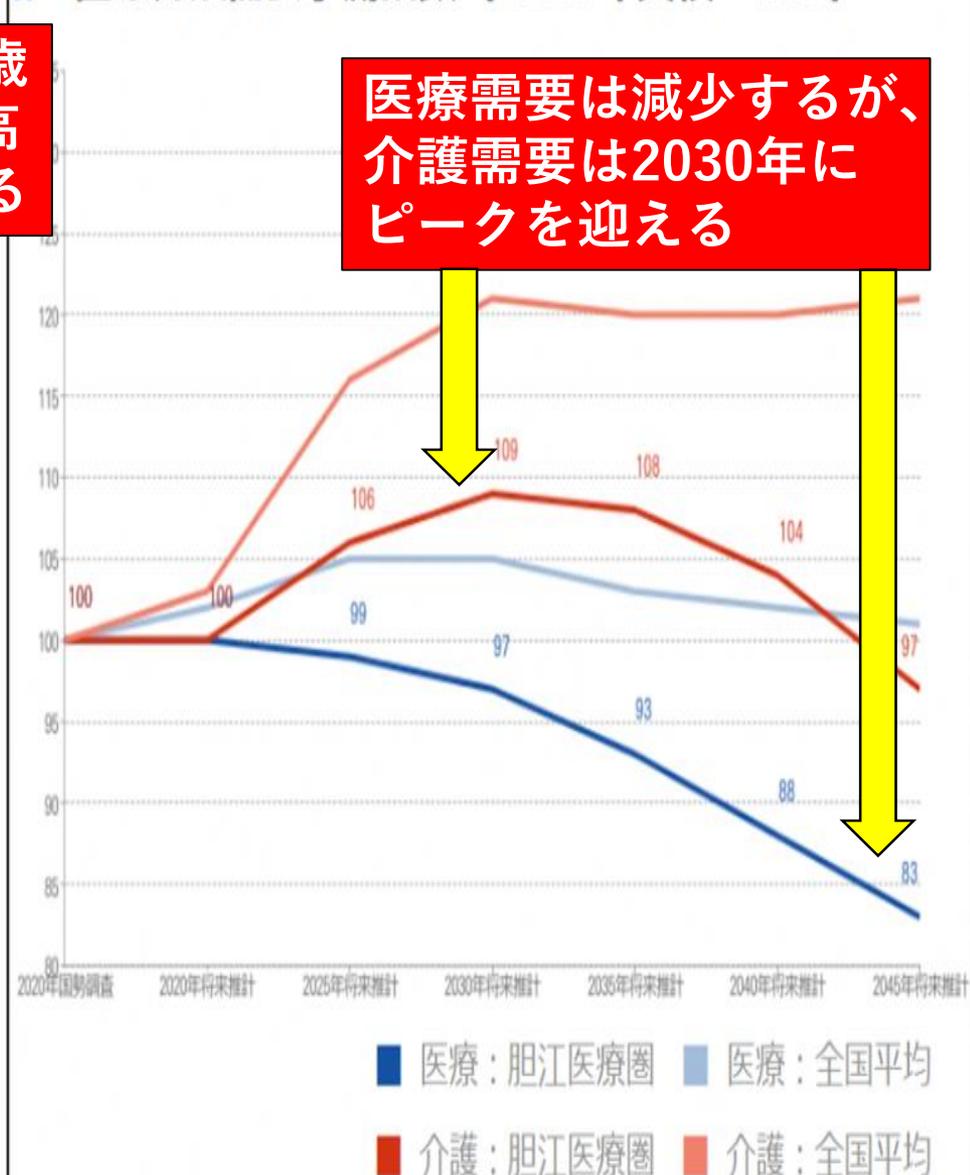
奥州市

II 人口減少や少子高齢化の急速な進展に伴う医療需要の変化

❖ 将来推計人口 (人)



❖ 医療介護需要予測指数 (2020年実績=100)



今すぐに手を打たないと……

医師不足、医師の負担増

人口減少、後期
高齢者の増加

新たな医療ニーズ
に対応できない

特定の病院
への過度な
集中

更なる負担増
による医師の
離職

医療の質、
量の低下

地域医療の崩壊

今、手を打てば、流れを変える ことができます！



安心して暮らせるまちへ

医療の質、
量の向上

若い医師
の就職増

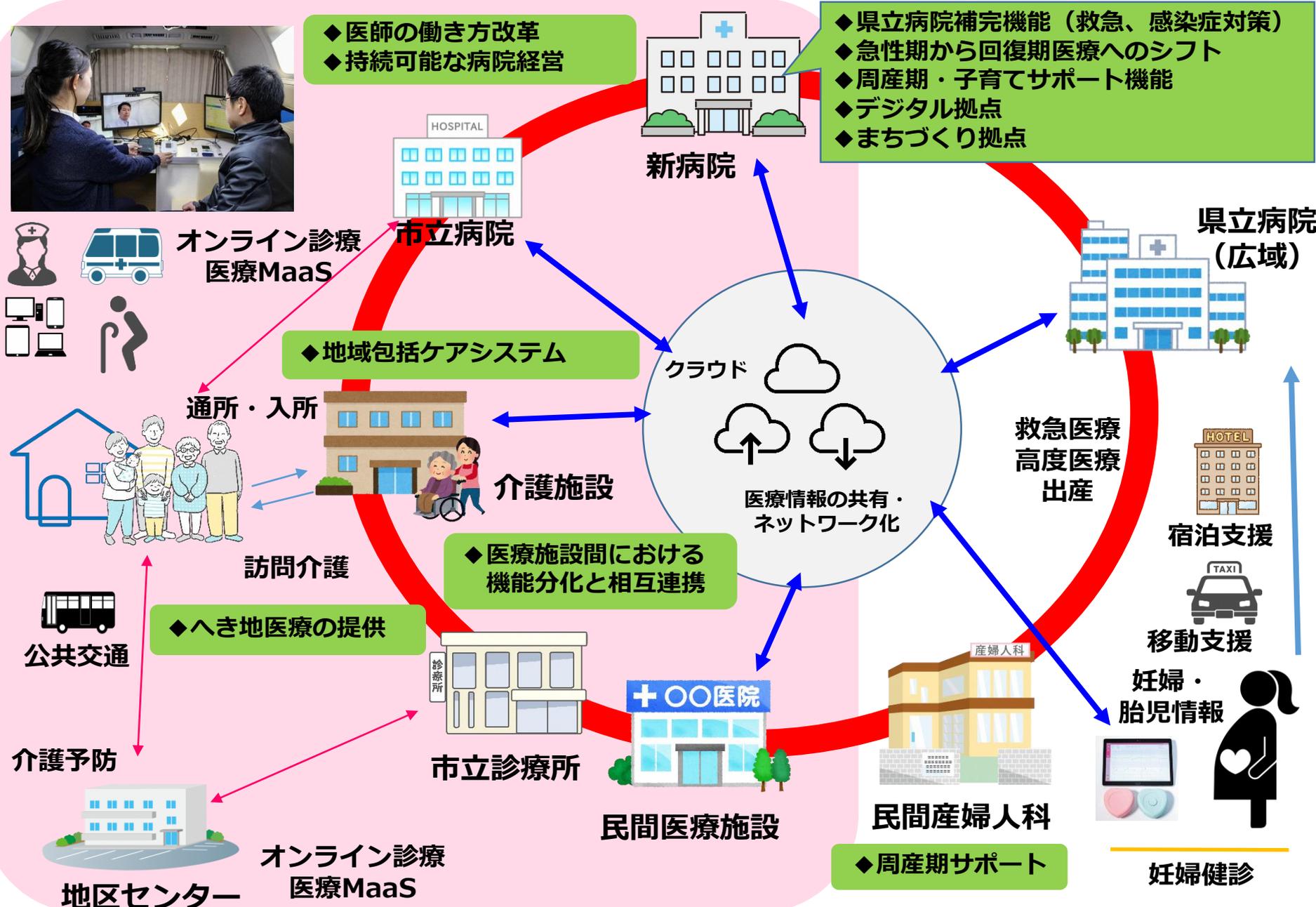
症例数
の増

働きやすい
職場環境

医療ニーズ
に添った医
療の提供

医療資源
の最適化

地域医療奥州市モデルのイメージ図

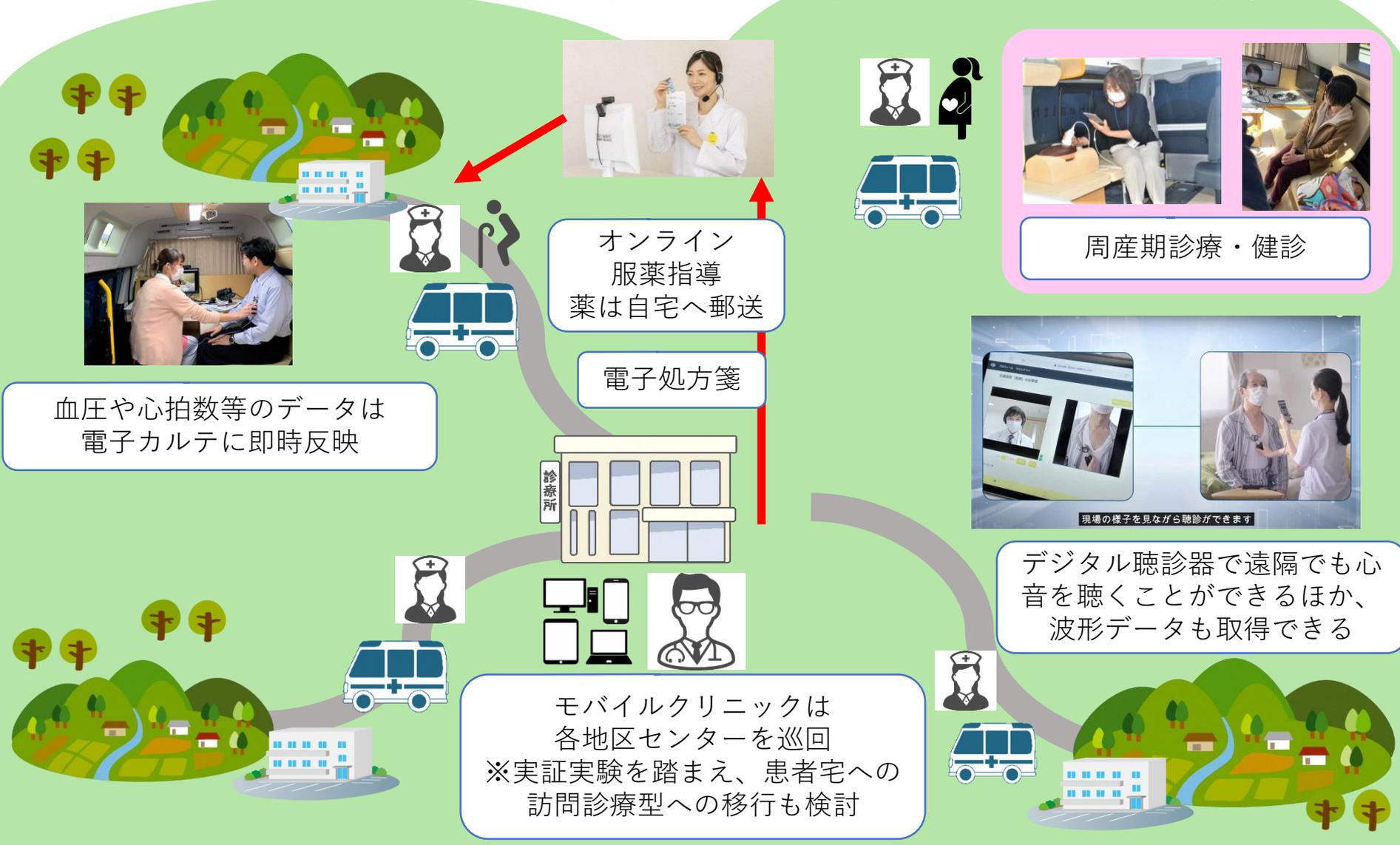


医療、介護、介護予防、生活支援サービスの包括的な提供

- ・ 回復期病床の増床や職員の拡充によるリハビリ機能の強化
- ・ 訪問看護ステーション機能の強化及びモバイルクリニックの活用
- ・ 医療介護資源情報提供サービス（けあプロnavi、ケア倶楽部）やメディカルケアステーション（MCS）などを活用した情報共有の促進
- ・ 特定健康診断や人間ドック等の健康増進事業の実施
- ・ 在宅医療介護連携拠点の設置(現在は市役所内に設置)



モバイルクリニック遠隔診療サービス事業(衣川地区で実施)



衣川地区での実証実験を経て、将来的には全市へ展開することを目指します

院内感染や新感染症に迅速に対応できる施設環境の整備

- ・ 患者動線のゾーニングに配慮した施設整備
- ・ PCR検査等病原体検査の体制整備
- ・ 感染防護具等の備蓄
- ・ 感染管理の専門人材の育成
- ・ 院内感染対策の徹底



医療従事者が働きやすい職場環境の構築

- ・ 医師負担を軽減するため、看護部・コメディカル等チーム医療の推進
- ・ 院内保育所の設置など職員の出産・育児に配慮した職場環境の整備
- ・ 業務の共通化やICTの活用による自動化、効率化の促進
- ・ 5つの市立医療施設の連携による医師養成プログラムの策定



安心して生み育てられる環境の整備

- ・ 宿泊ケア施設の設置など産後ケア事業の充実強化
- ・ 子育て総合支援センターを新病院に移設
- ・ 医療的ケア児の受入
- ・ 病後児保育施設の設置
- ・ モバイルクリニックの活用による診察・健診の実施
- ・ 相談機能の充実（オンライン含む）
- ・ ホームページ・SNS・ガイドブックなど情報発信の強化
- ・ 各種助成制度の充実（タクシー補助、宿泊補助、妊産婦給付金等）
- ・ 関係機関と連携した広域的な周産期支援体制の構築



施策⑦ まちづくり拠点としての新病院建設

総合水沢病院は昭和57年に建設。40年近くが経過し、劣化が著しい。耐震性に問題がある。



早急な建て替えが必要だが、どのような病院を建てるべきなのか？

新病院は、救急や感染症対応など県立病院を補完する機能を維持しつつ、急性期医療から回復期医療へとシフトし、併せて、市立医療施設の中核としてコントロール機能を持ち、医療のデジタル化に向けた取り組みや周産期・子育てのサポート、そして、多世代が利用できるまちづくり機能を備えた病院が望ましい。

ところで、まちづくり拠点とはどういう意味？

考える上でのヒント

2019年9月に、盛岡市内丸にあった岩手医科大学付属病院は、矢巾町へ移転。その結果、矢巾町は人口が増加し、2020年国勢調査では、前回の2015調査時点と比較して人口が増加した全国でも数少ない町の一つとなった。



病院は医療を提供する場所だが、人が集まり、賑わいを創出できる場所でもある。新病院は、多世代の人々が集まる、奥州市の新たなまちづくりの拠点としたい。

◆広報お知らせ版12月号で提示した新病院建設候補地に関する複数案

プラン	地域属性 (建設地の例)	病院建設に関する評価項目				病院機能に関する評価項目	
		建設コスト	アクセス		高度医療 拠点との 近接性	拡張性	まちづくり 拠点
			車	公共交通			
I	郊外 (学校跡地、 未利用市有地等)	◎	◎	△	建設場所 による	◎	△
II	市街地 (公園、学校跡地等)	◎	○	◎	◎	○	◎
III	現地建替 (現総合水沢病院敷地)	△	△	◎	◎	△	◎

これまで市民の皆様から頂いた意見も踏まえ、それぞれのプランの是非を検討した結果、以下の理由から「**II 市街地**」を最適なプランとします。

理由1 今後高齢化がさらに進む中で、病院への通院を考えた場合、高齢者の利用頻度が高い公共交通の利便性が良い場所が好ましい。(利用者の利便性)

理由2 病院を医療を提供する場所としてだけでなく、多世代の人が利用するまちづくりの拠点としての性格を付与する場合には、市街地に建設の方が賑わいの創出や新たなまちづくりにつながるポテンシャルが高い。(まちづくり拠点としての可能性)

理由3 市街地、特に立地適正化計画エリアに建設することで、国からの補助制度の活用が可能になり、建設コストの大幅な低減が可能になる。(建設コストの低減)

IIの市街地案を基に、①利用者（市外・市内）のアクセス面での利便性、②ネットワーク型地域医療体制の中核となりえる適地、③まちづくり拠点として多世代が集まるエリア、④コストの低減という、4つの観点から最適地を検討した結果、**水沢公園の陸上競技場及びその周辺**を新病院建設候補地として提案する。

① 利用者（市外・市内）のアクセス面での利便性

- ・ 公共交通（鉄道、バス）が充実しているエリアであり、また国道や高速道路（奥州スマートICや水沢IC）とも近く、市内外からのアクセス面での利便性が優れている。
- ・ 車でのアクセスに必要な広い駐車場や公共交通を利用する際に利用しやすいバスロータリーを設置できる十分な広さ（※1）を有している。

② ネットワーク型地域医療体制の中核となりえる適地

- ・ 民間医療施設が集中しているエリアであり、また高次医療機関である県立胆沢病院とも近く、症状に応じた転院や紹介・逆紹介など相互アクセスが容易である。

③ まちづくり拠点として多世代が集まるエリア

- ・ 水沢公園の中にあり公園機能（休憩、散策、スポーツ活動等）を活用することもできるため、多世代の人が利用しやすく、賑わい創出が可能なエリアである。
- ・ 水沢の中心部に位置しているため、高校生等が集まりやすいエリアである。

④ コストの低減

- ・ 市有地であり、土地取得費が発生しない。
- ・ 現在策定中の立地適正化計画における誘導区域内に想定されることから、都市構造再編集中支援事業（※2）の活用を見込める場所である。

※1 建設候補地（水沢公園陸上競技場）敷地面積(約20,000㎡)
現総合水沢病院敷地（病院敷地：10,472㎡ 駐車場敷地：6,928㎡ 合計 17,400㎡）

※2 本事業の活用により、国からの補助が得られる。

新病院は医療の提供のみならず、多世代の市民が集う新たな賑わいの拠点としての機能を付与します

- ・ 子育てひろばの設置(木製おもちゃや絵本コーナーなども設置)
- ・ 市民が自由に利用できる多目的ラウンジ (Wi-Fi完備)
- ・ 市民活動のための研修室・会議室の設置
- ・ 行政オンライン相談窓口の設置
- ・ オープンスペース
- ・ 公共交通の結節点
- ・ 災害時における避難所拠点
- ・ 水沢公園としての機能
(休憩、散策、スポーツ活動)



今後のスケジュールについて

作業	4年度下半期	5年度上半期	5年度下半期	6年度以降
地域医療奥州市モデルの決定	→			
病院経営強化プランの策定		→		
新病院基本構想の策定			→	
基本設計・実施設計、建設工事				■ ■ ■ ■ →

新病院建設は、非常に大きなプロジェクトですので、今後も多くの手続きや作業を行っていく必要があります。

また、新病院の規模や機能についても、さらに詳細を詰めていく必要があります。

市は、今後とも市民の皆様とともに考えながら、奥州市の未来を担う新病院の建設に向けた作業を進めていきます。

ご視聴、ご清聴、
ありがとうございました。

奥州市